



6月19日～20日、日本労働者協同組合（ワーカーズコープ）連合会第41回定期総会はコロナ禍での開催となり、初めてのオンラインによる総会となった。労協連本部8階会議室をメイン会場とし、全国79人の代議員とオンラインでつなぎ、傍聴のアクセスも103ヶ所（参加人数はその1.5倍と換算）、本部役員・要員、各拠点の運営委員やセンター事業本部役員を足すと、総会は約480人が参加したことに。翌日の合同企画はさらにセンターの総代が加わり（459人）、傍聴アクセスも161か所と増え、試算すると約750人が参加したと思われる。これは過去最高の参加者であり、対面では集まらない弊害もあったが、オンラインを通して普段は参加できない人が、全国各地から参加できた。

6月12日に全党・全会派の賛同をもって衆議院に労働者協同組合法案が提出された直後に開催された総会であり、総会には与党協同労働の法制化に関するワーキングチーム、協同労働振興研究議員連盟、法案の取りまとめを担った担当者会、法案の提出者や賛成者など多くの国会議員の方々、さらには日本協同組合連携機構（JCA）、労働者福祉中央協議会（中央労福協）からご挨拶（直接参加、WEB参加、ビデオメッセージ、メッセージなど）をいただく。アップの画面を通して、議員から提出にまでこぎつけたことと、コロナ禍において全党・全会派一致で出せた労働者協同組合の必要性

や価値、次期国会での成立を熱く話される姿に、全国の仲間からは、いよいよ法制化が間近となっている臨場感が伝わり緊張感が高まったなどの感想が多く寄せられた。

また法制化合同企画では、センター中国事業本部の佐々木コーティングとの連携した工場づくり、センター但馬地域福祉事業所と豊岡市の連携した地域循環事業への挑戦、大学生協連など若者の取り組みなどに、多くの関心が寄せられた。民間企業との社会貢献をテーマに連携が出来る、またモノづくり現場では「失敗した人を責めるのではなく、その環境をどのようにみんなで改善するか」などの話に共感が集まり、今後の広がりへの期待が高まった。さらには但馬の組合員が赤ちゃんを連れて参加し、泣いたらすぐに豊岡市の職員が抱っこする場面から、市職員との信頼関係や子どもを育てる母親が組合員として力を発揮できる姿に多くの組合員が励まされた。

法制化時代は、誰もがどこでもどんな仕事でもワーカーズコープを作ることができる時代を予感させる総会・合同企画であった。改めて組合員一人ひとりが、やりたいこと、地域で困っていることを話し合い、地域に呼びかけ、1つずつ挑戦することからはじめたい。その実践が、多くの地域の人たちの共感を広げ、励まし、新たなワーカーズコープづくりに繋がる。